

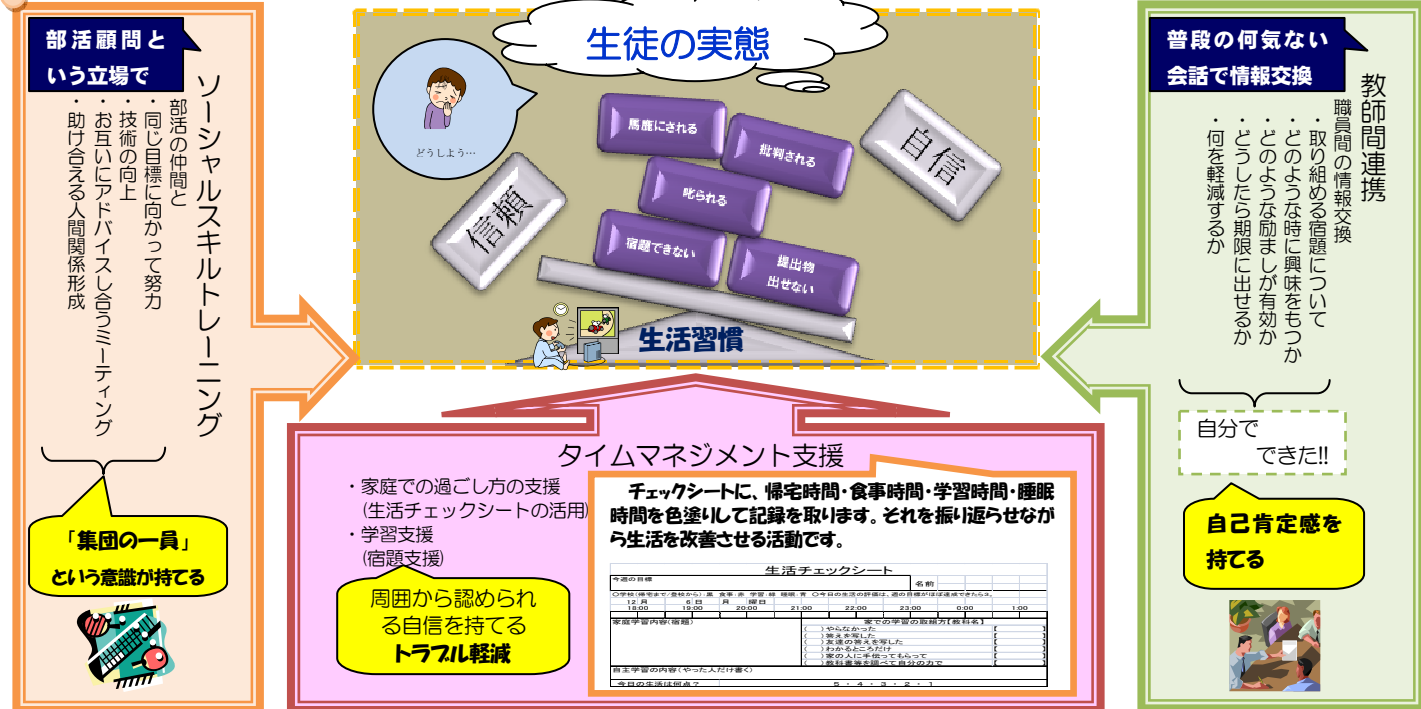
通常学級における特別な支援が必要な生徒が、自律した生活を送るための生活指導

ータイムマネジメント支援を中心としてー

特別支援教育班 小林久美子（中学校教諭）

【研究の概要】

特別な支援を必要とする生徒とその生徒たちを取り囲む部活動の生徒に対し、時間を意識して生活させるために生活チェックシートを活用したタイムマネジメント支援を行ない、自分自身で時間の使い方の課題を見つけて、改善を繰り返させた。また部活動の中でこのチェックシートを基にしてお互いのよさを認め合い高め合うミーティング活動を取り入れた。これらを継続的に指導することで、学校・家庭生活において達成感の得られる生活作りを目指す研究に取り組んだ。

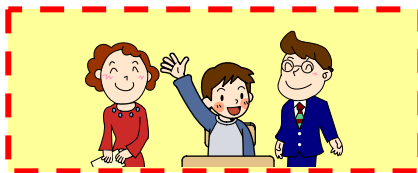


【生徒の変容】

ソーシャルスキルトレーニングを通して

- ミーティングを通して、仲間のよいところを取り入りたいという意識がもてた。
- A君やB君の生活について、肯定的な意見を言う部員が増え、認め合う雰囲気が出てきた。
- みんなで生活を振り返ることによってA君とB君も集団の中の一員であるという意識が育ってきた。

卓球の技能だけでなく、学習時間も張り合うなど、いいライバル関係ができてきている。



タイムマネジメント支援を通して

A君は…

- 夕食がすむとすぐに学習を始める習慣が身に付き始めた。
- テスト前や長期休みの学習課題の計画を親子で立てるようになり、提出期限に間に合うようになった。

B君は…

- やるべきことがある時、大好きなゲームや地域のサークルの練習を我慢して取り組むようになった。
- シートの活用により、朝に学校の準備をする癖がぬけないことと就寝時間が一定でないことに気付けた。

教師間連携で

- 授業の進度に合わせて「ワークの何ページまでできる」という紹介を生徒にでもらうように呼び掛けたことにより、そのようにする先生が増えた。
- 数学や英語では、教室の予定黒板に毎日どこまでワークができるか書かれるようになった。
- A君もB君も少しずつ取り組むことで、期限に提出できるようになり、宿題が終わっていない不安による、気になる行動が減った。

【成果と課題】

- タイムマネジメントにより、特別な支援を必要とする生徒たちは生活習慣を整え安心した生活を送れるようになった。今後は生活チェックシートを利用しなくても自発的にタイムマネジメントを続けられるように指導する必要がある。
- 生活チェックシートを活用したミーティングを通して、お互いをよく知ることができ、部活動の仲間とは安心してかわかれるようになってきた。しかし、大きな集団の中に入ったときにパニックやトラブルを起こすことがあるため、様々な集団に属したときに困ったことを自ら申し出て助けを求める技能などを身に付けさせていきたい。
- 教師間で連携しきめ細かな支援を進めることで、失敗を繰り返すことが少なくなった。教師間で気軽に情報交換できる雰囲気作りにも今後も努めていきたい。